

あくまでも自分史として

# 「岳陽」と共に

第 67 号

発行日 2026.01. 15  
編集・発行 井上講四／堂本彰夫  
※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)  
Tel:098-963-9282  
E-mail: gakuyou17@outlook.jp

○新年を迎えて！私生活では楽しい時を過ごしたが…

今年も、新年を迎えて、早半月が過ぎた！本当に、時の流れは速いものである！この間、悲しい事件や事故もあつたが、某国の、他国（直接的には当国大統領？）に対する大胆な軍事行動（こんなこともあるのか！）、そして、それに伴う、諸国間の「パワーバランス？」激変の危惧が高まつている！だが、個人的には、いつものように？楽しい時間を過ごさせてもらっている（辛い思いをしている人には、大変申し訳ないが！）！

例えば、年末からの、次女／三女の帰省と、それに伴う家族団欒の時間（ドライブや外食、長女一家や私の実家とのオンライン年始も含めた）は、その最たるものであつたが、それが、どれほど貴重なものであるかも、改めて実感させてもらった！さらには、大晦日の日の、島根県益田市のTさん（小学校の教頭先生、奥さんが沖縄の人）の来訪、また、恒例となつている、卒業生S君の、元旦早々（年明け深夜）の電話も、そうした思いに拍車をかけるものであつた！

ということ、今年も、こうした楽しみ（幸せ？）を享受すべく、出来得る限りの努力（まさに、言葉の真の意味における笑をしていくつもりであるが、果たしてどうなるのか？）とわりわけ、さらなる身体的不調？が懸念されるが、それについても、可能な限りの抑止力？をつけようとも思っている！ただし、やはり、他方では、国内外の情勢（双方共にパワーバランスの激変が進んでいる）、それに関わる政治、経済の動向が気なるところではある！私の主たる関心（杞憂？）は、もちろん「教育」にあるが、そのことと関わって、この「教育」がどのようなあればよいのかということ、私なりに考え続けていく一年ともしたい！そういうことでもある！

○リベラリズムとリアリズムの対峙が先鋭化する!!

ところで、上でも述べたように（そして、大いに懸念されているように）、現在、世界的な秩序の大転換が進行している！具体的な事案はここでは挙げないが、あつという間の動きである！ある意味、飛んでもない段階の危機が生じているとも言えるが、ただここでは、そのことはともかく（表面的には、もちろん重大な問題ではあるが！）、もう一つの気掛かりな点を書いておきたい。それは、我が国における（否、他の多くの国においても）であろうが、いわゆる「リベラリズム（自由／理想主義）」と「リアリズム（現実対処主義）」の関係が、より先鋭な対峙化に向かつていくということである！

どういふことかと言うと、様々な「パワーバランスの変容」の局面が、「理想と現実」の深刻な対立を生み出しているということである（本来、両者は相反する、否、別世界の？）ものではない！一すなわち、前者が、厳しい現実の前で自らの足場を失くし、揶揄的に言えば「お花畑で浮遊している」状況にある？そして、後者は、ますます先鋭化し、言わば「攻撃的現実主義」と化しているのではないかと！ということである!!まさに、理想と現実が、ますます乖離（対峙化）しているということである!!

もちろん、理想と現実とは、本来そういうものであるとも言えるのかもしれないが、だが、よくよく考えてみると、理想は、よりよい現実を実現するためにあるのだから、それ以外の存在理由はない！とすれば、何故、その対峙が進むのか？その理由（原因）を冷徹に見つめ、互いの関係を再構築していく他ないということである!!

○「分断」を防ぐものは、何も「学校教育」だけではない！

翻つて、上記のテーマ（問題）は、いわゆる「社会的分断」の問題とも、大いに関わってくる！そして、それは、必然的に、「教育」の問題にも波及してくる！そんな中、興味深いネット記事を見つけた。それは、『月刊教員養成セミナー』（12月号）の「キーワード&図で読み解く！現代の教育課題」である（12・27配信）。極端に言えば（否、そうではない）、そこには、「世界秩序の新たな出現に際して、そこで進む『分断』が加速すれば、差別や迫害などの行為が増え、治安の悪化を招くことが危惧される」とある（加えて、「本連載のキーワード2で述べた『少子化・高齢化』（2025年9月号）が進めば、キーワード3で述べた『内なるグローバル化』（2025年10月号）は不可避で、そうした意味からも『分断』は望ましくありません。そのため、先の大臣諮問においても『民主的かつ公正な社会の基盤として学校を機能させ』『共生社会を実現する』ことの重要性が謳われているのです。」ともあつた。）。

私を取り上げたいのは、「では、『分断』を防ぐために、学校教育にはどのような取り組みが求められるのか。まず、『分断』の根っこにある『格差』の拡大を防ぐためには、さまざまな経済的支援の充実が必要。すでに、幼児教育の無償化や高校教育就学支援金制度、学校給食の無償化などが進められているが、今後はさらなる拡充が求められる。また、『分断』を防ぐためには『多様な他者』を理解し、互いを尊重し合えるような学校づくりが求められる。人権教育や道徳教育の充実のほか、近ごろ提唱されている『対話的な学び』や『協働的な学び』なども、分断を解消する実践として位置付けることができる。」ということである！だが、私は、かねてより提唱してきているが、それは、最早「学校」だけに委ねられる（が対処できる）課題ではないということである！端的に、そこには、「中間共同体」（国家と個人の間に位置する集団で、家族、学校、地域コミュニティ、企業、宗教団体、労働組合など。個人が、社会において帰属感を持ったための重要な役割を果たしており、特に現代社会においては、孤独感を軽減するための重要な要素とされる）の再構築が必要であり、それを同時に実現させる「教育協働」の取り組みが重要であるということである！（井上）

○やはり、普遍的な問いなのだ、それは：

はてさて、こちらの方でも、どうやら表面と同じような文脈(テーマ)となりそうである(笑?)!!というのも、こちらにも、昨年末に、それらに関わるネット記事を見つけてしまっていたのである!それが、『別冊NHK30分』名著 集中講義 三大哲学書(カント『純粋理性批判』ヘーゲル『精神現象学』ハイデガー『存在と時間』)の紹介記事であるが、『哲学史上「最難解」と評されるこの3冊を、その概要、執筆の時代背景、重要概念、思想の押さえるべきポイントを厳選して解説する』という本であった!

著者は、哲学者・戸谷洋志氏であるが、それらは、『真実』はどこにあるのか?『共同体』が成立する条件とは? 私たちを覆う『不安』の正体とは?という、本質的な、そしてまた、現代にとつては極めて重要なテーマを扱っている!ということであった!ちなみに、その構成は、第0講「なぜ今『三大哲学書』を読むのか」、第1講「カント『純粋理性批判』—真実とは何か」、第2講「ヘーゲル『精神現象学』—共同体とは何か」、第3講「ハイデガー『存在と時間』—不安とはなにか」である。

残念ながら(否、恥ずかしながら)、私(堂本)は、その『三大哲学書(古典)』を直接読んだことはないが(ただし、もちろん、その各著者は知っているし、何となくではあるが、そこで扱われている主題についても、遅まきながら分かるような気もするが?)、改めて、その三つのテーマ(「真実」「共同体」「不安)を並列に並べられると、まさしく「現代」にも通用する主題であることが分かるということである!やはり、それは、普遍的な問いなのだということでもある!

ただ、(ここでは、それらについての深掘りをするつもりはない(出来ない)笑)強いて言えば、ここでは、(ヘーゲルの)「共同体」論が気になるところであるが、「真実」や「不安」が、その「共同体」のあり方と連環していることは、容易に推察されるところである(否、むしろこれを外していたら、それは、十分な思索とは言えない?)!

○驚きではあるが解散/総選挙があるのだが、今何故?

余談ではあるが、政治の世界では、新年早々大変なことになりそうである!衆議院の解散・総選挙の動きであるが、何でこんな時(新年早々と言う意味ではない!)にと、思う人は、私も含めて、多々いることであろう!!俗人の私からすれば、まったくもって迷惑?なことではあるが、当事者(候補者)達にとつては、真に切実な事態と言えらるう!そこには、もちろんト総理の政治的駆け引き、あるいは党利党略的なものが潜行していることは間違いないであろうが(このところが、私が、これまで政治を言避してき

た所以であるが)、結局のところは、その推移を見守ることしか出来ない!何とも情けない話であるが、いずれにしても、それが断行されるのであれば、私達は、そこに、どのような大義(国益+国民の幸せ?)があるのか?その具体的な姿・形とは何なのか?そのことを、冷静に注視し続けていく必要がある!ただし、国内外における諸課題は、悠長な時の流れを許さないということだけははつきりしている!そこだけは、認識を共有しなければならぬ!

・短歌に託して、想い、言い続けるしか術はない!!  
・何が大切か みんな分かっているのだ!  
・短歌に託して、想い、言い続けるしか術はない!!  
・リベラリズム(理想) とリアリズム(現実)  
・本来は、決して対立するものではない!!  
・繰り返すが、教育は学校だけの営為ではない!  
・現実を見れば、明らかではないか!

・必要なのは、幸せを感じさせる共同体!  
・政治や経済は、そのためにある!!  
・驚きの解散(総選挙)? 駆け引きではあろうがやるならば、そこに大義(国益?)があるはず!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕677

○続いて、「日向(三代) 神話」を探る?—その1—  
次に、やや性急かもしれないが、かの「日向(三代) 神話」と呼ばれるものに、(ここで少しまとまった考察を加えておきたい!もちろん、それ自体は、後世の「創作物語」ではあるが、そこにあるモチーフ(暗喩部分?)は、まさに「倭国建国(倭国+日本国)のプロセス」を指し示そうとしているものと考えられるからである!!そこでまずは、その初代とされる「天孫(天孫降臨)神話」の存在(在臨?)であるが、彼は、高天原(高天原)の命を受けて、「まさに生まれたばかりで葦原中国(日向高千穂)に降臨したわけである!」

いずれにしても、何とも信じがたい話?であるが(しかも、その赤ん坊はやおら高千穂から移動して、薩摩半島鹿野間岬(吾田長屋沙岬)で、「大山祇命」の娘(玉花佐久姫(吾田津/鹿野間)と出会い、すぐに「三男神/ホスセリ、ホオリ(ヒコホホミ)、ホアカリ」を生み出している!何ということか?神だ、それもあろうか?)、とにかく、何故、生まれたばかりの赤ん坊(瓊瓊杵尊)が、しかも、大和から遠く離れた九州に(田原)に国を譲らせたのではなかったのか?!!ということとは、単なる荒唐無稽を超えて、神話作成者(紀綱纂者の深い?)が(だが見え見えの?)意図を見出さざるを得ない!!

これが、例の「持統天皇」と美子「草壁皇子」、そして、孫の「軽皇子(文武天皇)」の皇位継承物語と気脈が通することは、これまでも多くの人が指摘されていることであるが(文武・持統時代の勢力構図の投影?)、ただ「天孫降臨」の地が、何故「南部九州」であったのかの説明は、ほとんど深掘りされていない!!神話では、隼人の祖(ホオリ)、皇室の直祖(ホスセリ/ヒコホホミ)、そして海部氏(尾張氏/物部氏同族)の祖が、そこに示されているわけだが、その兄弟関係と支配領域を考えると、ただそれだけでは、甚だ整合性が取れない(南部九州+北部九州+大和+東海+丹波)では、史実は、どうであったのか?(つづく)

〔編集後記〕晴れやかな年賀の雰囲気、それこそ一気に吹き飛ばすような激動が、国の内外で顕著となつている!それが、望ましい未来を招来するための動きなのか?それとも、さらなる危険や不安を増長させるものなのか?我々には如何ともしたがたいが、日々精一杯生きていくだけである!(井上/堂本)